

なが
ほし
流れ星 (しまざきとうそん
島崎藤村)

かど
門に 立ち出で ただ ひとり

ひと
人 待ち 顔の さみしさに

そら
ゆうべの 空を ながむれば

くも
雲の 宿りも 捨て はてて

なに
何か こいしき 人の 世に

お
ながれて 落つる 星ひとつ

解説 自分と流れ星が対比に表した作品。

語釈 ※流れ星Ⅱ流れ星が現れる場所。それは、雲よりも上で
すが、宇宙よりはちよつと手前で、具体的には高度一〇〇kmあ
りから落ちる。

通釈 自分は門まで出て、ただ一人で佇んでいる。ただ、誰か
人が来てくれることを待っていたのだ。ふと空を見上げると、
雲の間から何が恋しいのか流れ星が地上へ落ちてくるのが見え
た。その流れ星は、もう二度と戻れないにも関わらず、空の上
の住みかを捨てて、地上へ向かったのであろう。